

令和2年度(2020年度) 施政方針

令和2年(2020年)第1回市議会定例会が開会され、石阪市長は2月27日の本会議で施政方針を表明しました。ここでは、その概要を掲載します。全文は町田市ホームページでご覧いただけます。

市HP 令和2年度施政方針 検索 企画政策課 ☎724・2103

輝く町田を未来につなげる

町田市長 石阪丈一



2020年度の
市政運営の視点

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、多くの外国人観光客が日本を訪れます。これを契機に、異文化交流が日常となることが予想されます。同時に、海外の選手をお迎えすることで、ユニバーサルデザインのまちづくり等の意識が高まり、共生社会の実現に更に一歩近づくことでしょう。

また、技術革新の面では、AIやIoTを始めとしたテクノロジーが進歩しています。時間や場所にとらわれず、あらゆることがデジタルで完結する時代がすぐそこまで来ています。

町田市の合計特殊出生率は、国や多摩26市の平均を下回っており、より一層子どもを産み育てやすい環境づくりを進めていかなければなりません。一方で、これまでの子育てしやすい環境整備が実を結び、町田市はここ数年、年少人口が転入超過し、「子育て世代に選ばれるまち」になっています。これは、未来を担う子どもたちにやさしいまちづくりを進めている成果であると感じています。

子どもにやさしいまちは、高齢者や障がい者にもやさしい、みんなにやさしいまちでもあります。

さまざまな社会変化も一つのチャンスと捉えて、誰もが夢を描くことができ、幸せを感じられる「まちだの未来」をつくることのできるよう、市政運営に臨んでいきます。

2020年度の
主な取り組み

将来を担う人が育つまちをつくる

* 保育施設・子どもの居場所の充実 *

保育に関しては、0～2歳児を対象とした小規模保育所を、町田地区に2園、南地区に1園整備します。加えて、南地区には小規模保育所卒園後の受け皿となる認可保育所を1園整備します。子どもの居場所づくりに関しては、小山田中学校区子どもクラブの建設工事に着手します。

また、ユニセフと共に取り組む「子どもにやさしいまちづくり事業」の検証作業を進め、「子どもにやさしいまち」の理念実現に向けた具体的な施策について検討を行います。



2019年にオープンした小山子どもクラブ

* 町田ならではの英語教育の推進 *

2020年度開始の新学習指導要領では、小学3年生から英語教育が必修となります。学んだ英語を実践する機会を提供するため、町田ならではの特別な取り組みとして、市立小学校の5年生を対象に、南町田のス

ヌーピーミュージアムと連携した校外学習を実施します。

安心して生活できるまちをつくる

* 介護予防の環境づくりと医療・介護連携の強化 *

団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向け、介護予防・フレイル対策などに取り組みます。町田市オリジナルの筋力トレーニング「町トレ」を始め、身近な場所で介護予防に取り組むことのできる環境づくりを進めます。

今後増加の見込まれる医療・介護ニーズに対しては、「町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト」で、医療・介護連携に係る課題抽出と解決に向けた検討を進めます。

また、新たに在宅医療・介護連携機能強化型地域包括支援センターを設置し、医療・介護連携の更なる強化を図っていきます。

* 地域活動・市民活動の支援 *

市内全10地区にある地区協議会については、地域の魅力発信や情報共有を促進し、さまざまな団体が連携・協力できるネットワーク組織としての基盤を更に強化します。

昨年4月に開設した町田市地域活動サポートオフィスでは、地域の課題解決に取り組む団体と企業等の橋渡し役を担う総合的な相談窓口として、引き続き持続可能な地域づくりを支えていきます。

また、「まちだ〇ごと大作戦18-20」については、地域に寄り添った活動が盛り上がり、2月1日時点で、135件の取り組みが実現し、延べ116万人が参加しています。2020年度も、人と人の新たなつながりや新しい価値を創り出していきます。

賑わいのあるまちをつくる

* 町田薬師池公園 四季彩の杜西園の開園 *

町田薬師池公園四季彩の杜の玄関口として、西園(ウェルカムゲート)が4月17日に開園します。町田産の農産物直売所のほか、カフェ・レストランや体験工房、芝生広場等を設け、訪れた方をもてなします。



* オリンピック・パラリンピックに関する取り組み *

オリンピック聖火リレーが7月10日に市内を走行します。町田薬師池公園四季彩の杜西園(ウェルカムゲート)を出発し、ゴールの町田シバヒコでは、オリンピック聖火の到着を祝う式典(セレブレーション)を開催します。

また、7月25日、26日の自転車競技ロードレースでは、世界のトップアスリートが市内を走り抜けます。コースに隣接する小山白山公園で

は、大型映像装置を設置し、大会を観戦するコミュニティライブサイトの開催を計画しています。町田市でもオリンピック・パラリンピックを盛り上げていきます。



自転車ロードレースを市内を走る選手

* 芹ヶ谷公園「芸術の杜」の新プロジェクト *

芹ヶ谷公園「芸術の杜」プロジェクトでは、公園全体をフィールドに、子どもも大人も学び、楽しめる公園「パークミュージアム」の実現に向けた取り組みを進めていきます。昨年、市民とともに公園の将来につながる実験的な取り組みを行う「Made in Serigaya(メイドイン芹ヶ谷)」を立ち上げました。7月には活動の集大成として「パークミュージアムフェスティバル2020」を開催予定です。



* 野津田公園スポーツの森の整備 *

野津田公園スポーツの森では、多目的グラウンドと市民の利用率の高いテニスコートを整備します。加えて、町田GIONスタジアム(市立陸上競技場)の観客席増設工事を2020年度内に完了させ、プロスポーツ等の大会に対応した競技環境と観戦設備を整え、「する」スポーツ、「みる」スポーツの充実を図ります。

暮らしやすいまちをつくる

* 新たな都市づくりのマスタープラン策定 *

これまで「都市計画マスタープラン」「交通マスタープラン」「緑の基本計画」「住宅マスタープラン」として策定してきた各計画を1つにまとめ、2040年を目標とする「(仮称)都市づくりのマスタープラン」を策定します。

これにより、人口減少期における都市政策や、多摩都市モノレール延伸等の骨格的な交通基盤整備を見据えた新たな都市構造を設計し、交通、緑、住環境など各分野を連動させた総合的なまちづくりを展開していきます。

* 多摩都市モノレールの町田方面延伸 *

町田駅周辺は、多摩都市モノレール延伸後の起終点となります。広場や街路等の公共空間の再編、交通ターミナル機能の強化といった都市機能を導入することで、新たなまちづくりを進めていきます。

また、町田・多摩センター間のモノレール新駅のまちづくりについては、土地利用や基盤整備の検討を深めていきます。

* 鶴川駅・相原駅周辺のまちづくり *

鶴川駅周辺のまちづくりでは、駅

南地区の土地区画整理事業の事業認可を取得します。「鶴川駅周辺再整備基本方針」に掲げた、駅からバス・タクシー等への乗り換えの利便性向上、駅の南北方向への円滑な移動等によるにぎわいの創出、道路や下水道整備の住環境改善等を進めます。

また、相原駅周辺では、大戸踏切立体化事業に伴う相原駅東口アクセス道路整備に併せ、駅前にふさわしいまちづくりに取り組みます。

行政経営改革の取り組み

* 地域・民間事業者・行政の新たな関係性の構築 *

「まちだ〇ごと大作戦18-20」が最終年を迎えることを踏まえ、今後も引き続き、地域の魅力を高めるために市民や地域団体が主体的に進めている取り組みを支えていきます。

また、民間事業者と行政がコラボレーションすることで、市民の利便性や地域の魅力向上に貢献し、多様なサービスを生み出します。

* 最先端のテクノロジーの導入 *

デジタル社会ならではの利便性を行政経営に生かしていくため、最先端のテクノロジーを積極的に導入していきます。導入にあたっては、市民サービスの向上が実感できるような活用を目指すとともに、市役所の生産性向上をも目指し、スピード感を持って取り組んでいきます。

* 公共施設の再編 *

2020年度は、公共施設の再編において、具体的な検討を本格化していきます。まず、町田駅周辺にある公共施設については、2019年度の調査、検討結果を踏まえ、複合化方針を作成します。作成にあたっては、案の作成段階から民間事業者の提案を受けるとともに、対話を通じて市場性の有無等を把握する「サウンディング型市場調査」を町田市で初めて実施します。

次に、市立小・中学校については、より良い教育環境をつくり、充実した学校教育の実現を目指して、適正規模・適正配置の審議を進めます。

公共施設再編にあたっては、将来を見据えた理想的な姿を、市民の皆さんと描くことを大事にしながら進めていきます。

むすびに

「(仮称)まちだ未来づくりビジョン2040」の策定については、2040年のまちだの未来に向けたご意見を多くの方から伺っています。2020年度はより具体的な施策の検討を行います。

少子高齢化という状況において、今後の財政見通しは厳しい状況にあります。夢を描く一方、夢で終わってしまうことのないよう、市民の皆さんにも、策定の段階から広くお知らせし、分かりやすく覚えやすい、みんなが目指せるビジョンとしていきます。